

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
[PCT36 条及び PCT 規則 70]

REC'D 28 APR 2005

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 MOA-A0301P	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 2004/005407	国際出願日 (日.月.年) 15.04.2004	優先日 (日.月.年) 15.04.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ C12N15/00, A01H5/00, C12Q1/68		
出願人 (氏名又は名称) 独立行政法人農業生物資源研究所		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条（PCT36 条）の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 6 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。
- a. ☐ 附属書類は全部で _____ ページである。
- ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照）
- ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
- b. ☒ 電子媒体は全部で ディスク 1 枚 _____（電子媒体の種類、数を示す）。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第 802 号参照）

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
- | | |
|-----|--|
| 第Ⅰ欄 | 国際予備審査報告の基礎 |
| 第Ⅱ欄 | 優先権 |
| 第Ⅲ欄 | 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成 |
| 第Ⅳ欄 | 発明の単一性の欠如 |
| 第Ⅴ欄 | PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 |
| 第Ⅵ欄 | ある種の引用文献 |
| 第Ⅶ欄 | 国際出願の不備 |
| 第Ⅷ欄 | 国際出願に対する意見 |

国際予備審査の請求書を受理した日 24. 09. 2004	国際予備審査報告を作成した日 12. 04. 2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 伏見 邦彦	4N 9838
	電話番号 03-3581-1101 内線 3488	

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第_____ページ、出願時に提出されたもの

第_____ページ*、_____付けて国際予備審査機関が受理したもの

第_____ページ*、_____付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第_____項、出願時に提出されたもの

第_____項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第_____項*、_____付けて国際予備審査機関が受理したもの

第_____項*、_____付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第_____ページ/図、出願時に提出されたもの

第_____ページ/図*、_____付けて国際予備審査機関が受理したもの

第_____ページ/図*、_____付けて国際予備審査機関が受理したもの

☒ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第_____ページ

☐ 請求の範囲 第_____項

☐ 図面 第_____ページ/図

☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第_____ページ

☐ 請求の範囲 第_____項

☐ 図面 第_____ページ/図

☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第Ⅲ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成

次に関して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性、進歩性又は産業上の利用可能性につき、次の理由により審査しない。

☐ 国際出願全体

☒ 請求の範囲 17-23

理由：

☐ この国際出願又は請求の範囲 _____ は、国際予備審査をすることを要しない次の事項を内容としている（具体的に記載すること）。

☒ 明細書、請求の範囲若しくは図面（次に示す部分）又は請求の範囲 17-23 の記載が、不明確であるため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。
請求の範囲 17-23に係る発明は作製方法によって特定された変異植物（繁殖材料）であるが、当該作製方法は選抜方法しか特定がされておらず、どのような植物が得られるのかが特定できない。よって、請求の範囲 17-23に係る発明にどのような植物（繁殖材料）が包含され、どのような植物が包含されないのかが全く不明である。

☐ 全部の請求の範囲又は請求の範囲 _____ が、明細書による十分な裏付けを欠くため、見解を示すことができない。

☒ 請求の範囲 17-23 について、国際調査報告が作成されていない。

☐ スクレオチド又はアミノ酸の配列表が、実施細則の附属書C（塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細書等の作成のためのガイドライン）に定める基準を、次の点で満たしていない。

書面による配列表が

- ☐ 提出されていない。
- ☐ 所定の基準を満たしていない。

コンピュータ読み取り可能な形式による配列表が

- ☐ 提出されていない。
- ☐ 所定の基準を満たしていない。

☐ コンピュータ読み取り可能な形式によるスクレオチド又はアミノ酸の配列表に関連するテーブルが、実施細則の附属書Cの2に定める技術的な要件を、次の点で満たしていない。

- ☐ 提出されていない。
- ☐ 所定の技術的な要件を満たしていない。

☐ 詳細については補充欄を参照すること。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)

請求の範囲 4, 9-16

請求の範囲 1-3, 5-8

有
無

進歩性(IS)

請求の範囲

請求の範囲 1-16

有
無

産業上の利用可能性(IA)

請求の範囲 1-16

請求の範囲

有
無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: MESFIN, A et al., Quantitative trait loci for Fusarium head blight resistance in barley detected in a two-rowed by six-rowed population. Crop Sci., vol. 43, pp. 307-318 (Jan-Feb 2003)

文献2: TANNO K et al., A DNA marker closely linked to the vrs1 locus(row-type gene) indicates multiple origins of six-rowed cultivated barley(Hordeum vulgare L.).

Theor. Appl. Genet., vol. 104, pp. 54-60 (2002)

文献3: 斎藤彰ら, 新開発の制限酵素断片長多型(RFLP)マーカーを含むオオムギ RFLP 地図. 生物資源研究成果情報, 第8号, 第61-62頁(1999)

文献4: MANO, Y et al., Map construction of sequence-tagged sites(STSs) in barley (Hordeum vulgare L.). Theor. Appl. Genet., vol. 98, pp. 937-946 (1999)

請求の範囲 1-3, 5-8

国際調査報告で引用した上記文献1には、オオムギの赤かび病抵抗性 QTL が2番染色体上にあり、QTL の一つは条性を支配する Vrs1 と関連していること、Vrs1 のそばに MWG865 が存在すること、および当該 QTL の分子マーカーを見出したことが、それぞれ開示されている。

染色体上の分子マーカーを用いた識別方法として RFLP、AFLP、RAPD はいずれも広く知られているので、上記文献1には、請求の範囲 1-3, 5-8 に係る発明が実質的に開示されているということが出来る。

よって、請求の範囲 1-3, 5-8 に係る発明は、上記文献1により新規性を有しない。

配列表に関する補充欄

第 I 欄 2. の続き

1. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に必要なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき国際予備報告を作成した。

- a. タイプ ☒ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☒ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☒ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査又は予備審査のために、この国際機関に提出された
☐ _____ 付けて、この国際予備審査機関が補正*として受理した

2. ☒ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

3. 補足意見：

*第 I 欄 4. に該当する場合、差替える配列表又は配列表に関連するテーブルに "superseded" と記入されることがある。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲 4, 9-11

染色体上の分子マーカールを見出すことは、例えば、国際調査報告で引用された上記文献 3 や 4 に開示されているとおり、本願出願前に周知である。

請求の範囲 4, 9-11 に係る発明は、上記文献 1 の開示に基づいて上記周知技術により分子マーカールを定めたものにすぎない。

よって、請求の範囲 4, 9-11 に係る発明は、上記文献 1 および周知技術により進歩性を有しない。

請求の範囲 12-16

植物の形質の識別方法を育種における選抜に用いることは例示するまでもなく普通のことである。

請求の範囲 12-16 に係る発明は、上記文献 1 により進歩性を有しない。

請求の範囲 1, 2, 5-8

国際調査報告で引用された上記文献 2 には、*vrs1* に連鎖した分子マーカール MWG699 を用いてオムギの条性の起源について調査したことが、開示されている。

よって、請求の範囲 1, 2, 5-8 に係る発明は、上記文献 2 により新規性を有しない。

請求の範囲 4, 9-11

染色体上の分子マーカールを見出すことは、例えば、国際調査報告で引用された上記文献 3 や 4 に開示されているとおり、本願出願前に周知である。

請求の範囲 4, 9-11 に係る発明は、上記文献 1 の開示に基づいて上記周知技術により分子マーカールを定めたものにすぎない。

よって、請求の範囲 4, 9-11 に係る発明は、上記文献 2 および周知技術により進歩性を有しない。

請求の範囲 12-16

植物の形質の識別方法を育種における選抜に用いることは例示するまでもなく普通のことである。

請求の範囲 12-16 に係る発明は、上記文献 2 により進歩性を有しない。